ラーラのこと

善方　眞

私どもの家庭でメスのラブ（ラーラと呼びます）を飼い始めてからもう一年と二・三か月たったことになります。今では、十年の知己のように、家人に、知人に馴れ親しんでおります。家の近くの買い物に行く商店や銀行でもだいぶ顔馴じみになっており、外で待っていると、ごほうびにキュウリやトマトをもらって帰ってくることが度々あるようです。

この気立ての良い彼女との出会いとなったのは、父の一周忌の日でした。家族が減ってしまったし、我が家には息子一人しかいませんので良き友人・家族として犬を飼たいと思っておりましたところ、丁度、雑誌の広告にラブラドールが載っていたので犬種もぴったり（これは独断）と思いカミサンに電話をして貰うと、「すぐ見に来てよい」とのこと、家族三人と甥姪二人都合五人で、早速出かけました。

先方に着くと一階のベランダで大きな声でブラックのラブラドールが吠えています。

「わあ！！大きいのね。」

あまり乗り気でないカミサンが言います。ご主人に案内されて二階へ。奥の部屋に通されると、いるいる。真っ黒で、丸々太ってツヤツヤしてるのがごろごろ一塊になってお昼寝の真っ最中、確か、七・八頭だったと覚えていますが、中には起きてきて短いけれど立派なオッターテイルを振り振りお愛想、この瞬間カミサンも落ちまして、子犬を連れ帰ることと相成り、中から一番デブッチョと思える一頭をいただいて帰ることにしました。

ご主人の木村さんから飼育上の注意などを伺った後、奥様の別れの儀式もそこそこにおいとま、帰りの車中ではカミサンに運転してもらい、頂いた兄弟の匂いつきタオルに包んで大事に連れ帰りました。

その晩はカミサンと二人で添い寝しながら用便の始末やら、食事の用意やらで神経をすり減らしたあの頃が夢のように思えます。

あれから一年ちょっと、見事なデブッチョに育ち家族一同心

から喜んでいます。

しかし、順風満帆で来たわけではありません。飼い方のミスから、獣医さんのお世話になったことも度々あります。ビー玉を飲んだ、サンダルをかじって食べてしまった、耳の中に水が入ったｅｔｃ・・・。この間も焼き鳥を二串、ビニール袋ごと飲み込み腹膜炎を起こさないよう、毎日注射、家族や先生みんなで心配していたところ、十日目にフニャフニャになった竹串が出てきて一件落着。また飼い主のミス・・・（申し訳ありません）。

今では、彼女の行動や様子を見てすぐに何をしたいか、して欲しいかもかなり理解できるようになったので室内で一緒に生活しても不便も窮屈さも感じていない毎日です。

この素敵な友ラブラドールとの出会いを与えてくださった木村さんほか東京南ラブラドールクラブの会員の皆様に、私ども揃って感謝しております。そして、もっといろいろな方にこのラブの素晴らしさを知っていただくためにも、会の発展を願ってやみません。